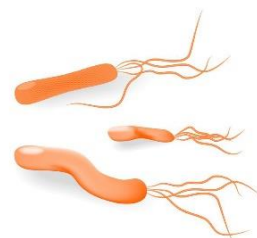


おうちだより No.41

ピロリ菌！その正体は？！

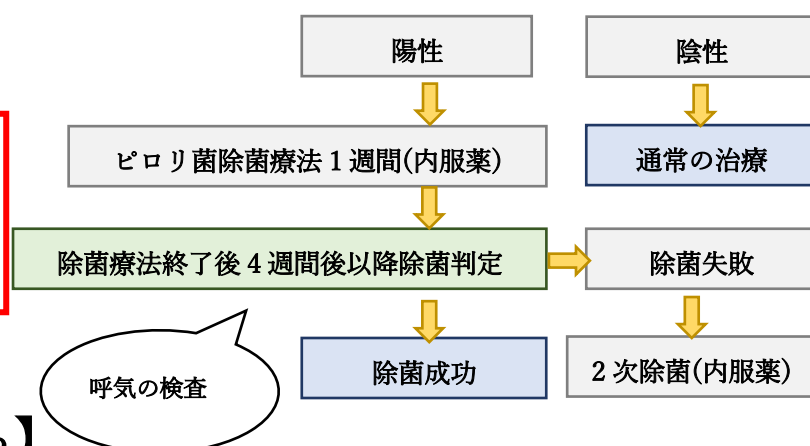
ピロリ菌は胃の粘膜にすみつく細菌です。一度感染すると多くの場合、除菌しない限り胃の中にすみつづけます。ピロリ菌なんてかわいい名前がついていますが、正式名称は「ヘリコバクター・ピロリ」ヘリコとは「らせん、旋回」ヘリコプターのヘリコと同じです。バクターとは「バクテリア(細菌)」のことをいいます。ピロリ菌検査を行うと一般の方で無症状であっても60%の方がピロリ菌に感染しており胃、十二指腸潰瘍の患者様に至っては約90%の方がピロリ菌に感染しています。ピロリ菌は将来的に胃がんの発生に密接に関与しているため無症状であってもピロリ菌除菌治療が勧められています。



【当院の主なピロリ菌有無検査方法】

- ・胃カメラを受けた際に細胞をとり検査(保険適応)
- ・検尿による検査(保険適応外)

ピロリ菌に感染している方は未感染者に比べて胃がんになりやすい！
といわれています



【もしもピロリ菌が存在したら】

除菌薬を1週間飲んでいただきその後4週間後に呼気(息)による判定をしていきます。それでも除菌が成功しない場合は2次除菌(保険適応)、3次除菌(保険適応外)と進んでいきます。

【ただし！除菌が成功したからといって油断は禁物です！】

ピロリ菌の除菌は、胃がんの予防効果があることが明らかになり、広く普及してきましたが、一方で近年除菌成功後に胃がんが発見されるケースが増えています。胃がん予防でピロリ菌除菌を受けにくるケースは増えていますが、その後のフォローアップを受けない方が目立ちます。

除菌後に発見される胃がんの分類

- ・除菌前には発生していなかった胃がんが、除菌後新たに発生したもの
- ・除菌前に発生していたが、内視鏡的に病変を認識できなかったもの
- ・除菌前にすでに発生し、病変を認識できるが、がんと診断がつかなかったもの
- ・除菌前にすでに発生し、かつ、がんと認識できるが見落とししたもの

除菌が成功したからといって安心はできないというのが現状です。胃がんは早期に見つければ完治する病気です。除菌後も定期的に胃カメラ検査をお勧めします。

